令和６年度ともに支えあうまちづくり活動創出助成金　交付団体一覧

	団体名	活動名
1	館地区社会福祉協議会	リーフレット作成
2	心も体も元気アップクラブ	心も体も元気アップクラブ これから頑張ろう！活動
3	西中田第一町内会	「集まっぺクラブ」による地域参加と交流の促進
4	E！Cheer＆Dance PlaNets イベントクラス保護者の会	チアを通じて南光台地区を活性化！
5	大和町五丁目町内会	ごみ出し支援を契機とした地域の支え合い活動の増進
6	連坊地区社会福祉協議会	連坊サークル 15
7	虹の丘地区社会福祉協議会	交流サロン「子どもと大人で楽しむボッチャ」
8	田子小学校父母教師会	たごの絆再生プロジェクト
9	安養寺地区社会福祉協議会	安養寺地区子どもまんなか住民交流事業
10	西中田町内会	南仙台地域における住民参加・交流促進活動
11	荒巻地区社会福祉協議会	子育てサロン　あらまきのもり
12	荒井東町内会	みんなの食堂
13	八木山地域再生・創生ボランティア グループYARVOG	みんなで歩こう
14	平渕 南天会	高齢者と子供たちの繋がり
15	松陵・永和台地区社会福祉協議会	松陵・永和台地区社協地域交流会 みんなで一緒に楽しみましょう！
16	金剛沢体育振興会	第24回ふれあいスポーツ村 －歴史にふれる健康ウォーキングと UD スポーツ「モルック」の体験－
17	作並地区社会福祉協議会	和紙のランプシェードで新たな参加者を巻き込もう！
18	ふれあい学びネット い・ず・み　推進委員会	あそびの天国 ミッション「全ブースクリアせよ」
19	AsoVi-Va みやぎ	屋内施設に関する視察とシンポジウム開催

1
館地区
社会福祉協議会

リーフレット作成

館地区社協では地区社協がどのような活動を実施しているのかを周知する機会が少ないことが課題となっていた。地域住民に地区社協が取組んでいる見守りやサロン活動について周知し、地区社協の見守り対象世帯を増やしていていくことで地域での孤立や孤独死の事例をなくしていくことを目的にリーフレットを作成。全戸配布を行うことで、地域の中で地区社協活動が今まで以上に周知され、潜在化していた要支援者が地域の支援につながるきっかけをつくることができた。

地区社協役員や福祉委員が地区社協を PR するツールとしても活用している。

2
心も体も
元気アップクラブ

心も体も元気アップクラブ　これから頑張ろう！活動

富沢地区では、もともとその地域に住んでいた住民と、宅地開発が進み、新たに居住した住民が交流できる場が少なかった。住民同士がお互いの存在を知って、笑顔で接したり、気にかけ合う雰囲気をつくることを目的に、運動や介護予防をきっかけにして地域の高齢者が交流できる場づくりを行った。おおむね60歳以上の方を対象に、月 2 回、特別養護老人ホーム“ノテとみざわの里”地域交流スペースで開催。地域に知り合いがおらず寂しい思いをしていた方が、皆と対話したり笑ったりしながら、楽しい時間を過ごしており、交流の場として機能している。

3
西中田第一町内会

「集まっぺクラブ」による地域参加と交流の促進

障がいのあるなしに関係なく、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加出来る場「集まっぺクラブ」を計 2 回開催した。学習教室や遊びの場の提供のほか、おにぎりや焼きそば、はっと汁を参加者で一緒に作り、食べながら交流を図った。当日は、太白区家庭健康課の保健師や地域包括支援センターの職員も出席していたため、子育てや介護のことを相談する場としても機能し、地域住民の悩みの解消にもつながった。世代を超えて顔の見える関係ができ、交流会後に子どもから声をかけられることが多くなったという地域住民の声もあった。

4

E!Cheer&Dance PlaNets イベントクラス保護者の会

チアを通じて南光台地区を活性化！

南光台地区は子育て世代が多い地域だが、地域の団体や活動につながっていない現状がある。子どもたちが新たな事に参加・挑戦することで、学ぶ楽しさを知ることに加えて、地域活動への参加を通して、自分の生活している地域を意識するきっかけを作り、地域への愛着心を育むことを目的にチア体験会を実施。7 月と 8 月に計 3 回のレッスンを行い、南光台夏まつりでのステージ発表を行った。

夏まつり終了後も、近隣の幼稚園などで体験会を実施。レッスンや夏祭りに参加した児童が先生となり、園児に教えるなど、祭り以外にも子どもたちが活躍できる場を設定した。また、夏まつりでの発表を通して、地域住民からも問い合わせがあり、南光台地区の児童とその保護者が地域の活動に参加するきっかけとなった。

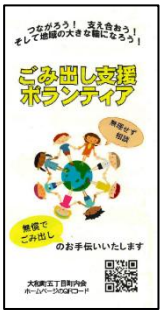
5

大和町五丁目町内会

ごみ出し支援を契機とした地域の支え合い活動の増進

大和町五丁目町内会では、仙台市のごみ出し支援活動促進事業に登録し、ごみ出しを契機とした住民同士の支え合い活動につなげていくことを目指してきた。

令和6年度からさらに活動を活性化させるため、ごみ出しの支援が必要な世帯の状況把握やボランティアを募るため、活動に関するリーフレットを作成。民生委員や福祉委員が訪問活動をする際に持参し、活動の内容について説明を行った。リーフレットを用いて説明することで本人はもとより家族にも理解してもらうことができた。また、活動について定期的に話しあう機会ができたことで、町内の課題を共有する場にもなっている。



6

連坊地区 社会福祉協議会

連坊サークル 15

「サークル 15」とは、連坊地区の 14 単位町内会と地区社協を足して名付けた。人材と言う資源である地域活動者と社協 CSW、地域包括支援センターが集まり、年3回の茶話会を開催。CSW による福祉活動についての講話や、地区内で課題に感じている生活支援活動に関する講話を受けた後、グループワークを行った。また、アイスブレイクも兼ね、インストラクターを呼び「ジャンプジャン＝ジャンジャン」を行い、非常に盛り上がった。

参加者からは「これまでの自分たちのささやかな活動が、地域にとってとても大切な役割を担っていたことが分かった」「コロナの時など大変だったのは自分たちだけではなかった」という感想が聞かれ、地区での連帯感も生まれている。

7
虹の丘地区
社会福祉協議会

交流サロン「子どもと大人で楽しむボッチャ」

子どもから高齢者まで幅広い年代が参加し、世代間交流ができるイベントとしてボッチャイベントを実施した。通常は平日に実施しているサロンであるが、若い世代にも参加してもらえるよう土曜日に開催。ボッチャを初めて行う子どもも多かったが、和気あいあいと絶え間ない歓声に会場が包まれた。

参加者の最高年齢は 95 歳、最小年齢は5歳。家族での参加もあった。高齢者は自分の孫や子どもと同じくらいの若さに触れて生き生きとしており、子どもたちは家庭や学校では接することができない大人との交流ができ、新しいつながりを感じることができた。

8
田子小学校
父母教師会

たごの絆再生プロジェクト

地域の中で住民同士の薄れた関係性を取り戻すため、子どもを中心とした場づくりを企画。主に夏休みなどの長期休み期間の子どもの居場所づくりに、保護者(P)、教員(T)のみならず地域(C)まで巻き込んだ活動としてスタートした。

田子小学校や市民センター、田子中学校と連携・協働し、「はやおき！なつフェス(①七夕飾り②氷と水のフェス③グラスリッツェン④めだかセミナー)」「親子でスポーツチャンバラ」「ミズアオイイベント」を開催。コロナ禍で交流 PTA 活動や運営も閉鎖的であったが、1 年間の活動を通して、交流やつながりづくりのリスタートができた。

9
安養寺地区
社会福祉協議会

安養寺地区子どもまんなか住民交流事業

安養寺地区では、震災以降新たに住み始める世帯等が増えてきていることに伴い子育て世代なども増えている。地区社協活動は高齢者への福祉活動を中心にしてきたこともあり、子どもも含めた活動の必要性を感じ、地区内の4町内会が協力し「こども花火大会」「町内対抗ボッチャ大会」を開催することとした。

過去 10 年以上、4町内会住民合同でのコミュニケーションをとりながら活動する機会は無かったが、今回実施した花火大会とボッチャ大会は、地域のつながりを深める貴重な機会となった。

10
西中田町内会

南仙台地域における住民参加・交流促進活動

南仙台駅周辺では、線路が連合町内会の境界線となり、東口側と西口側で物理的にも心理的にも隔たりを感じていることや、新しく建てられたマンションの住民との交流の機会もない状態だった。

そのため、住民同士がお互いの存在を知り、気にかけ合えるような雰囲気づくりを目的に、南仙台駅東口をメイン会場にステージ発表を行った。地域中学校出身のミュージシャンをはじめ、地域在住の芸人なども出演するほか、社協チラシ・パンフレットの配布など情報提供コーナーも設け、地域の活動について知る機会とすることができた。また、スタンプラリーを行い、交流を促すとともに、ラリースポットにいる地域団体や地域についても知る機会となった。

11
荒巻地区
社会福祉協議会

子育てサロン　あらまきのもり

荒巻地区では、これまで高齢者サロンはあったが、子育て世代が集まる場が少なかった。子育てサロンも開催されていなかったことから、子育て中のママが集える場づくりを行った。保育士による親子遊びや読み聞かせ、保健師の子育て相談、児童館スタッフによる紙芝居などを実施。保育士、保健師、民生委員、福祉委員がいるところで子育てに対する日々のちょっとした悩みや不安を口にできる地域の居場所になっており、同じ地域に住むママ同士のつながりもできた。

子育てママの癒しの場を作るため、今後も毎月開催し、穏やかに子育てできるママを増やし、健やかに育つ子どもを増やしていく。

12
荒井東町内会

地域食堂「あらいのへや」

高齢者と顔を合わせる機会が少ないことや、若い世代が町内会等の地域活動への興味を持ちにくくなっていることから、見守りを兼ねた地域食堂を荒井東市営住宅集会所にて計6回開催した。

75歳以上の高齢者、住宅内の子どもや保護者、住民ボランティア、学生ボランティア等の幅広い世代が参加し、若い世代は町内会活動への理解を深めることができた。また、一人暮らし高齢者が参加することにより、孤立の防止や見守り機能の強化にもつながった。

さらに、電球交換等の住民の個別の困りごとに依頼に対して、学生ボランティアが対応する場面も見られた。

13

八木山地域再生・
創生ボランティアグループ
YAEVOG

みんなで歩こう

八木山地区では、10 のウォーキングコースの歩数表示板を設置し、設置コースを表記した地図「八木山探索 MAP」を作成している。一人ではウォーキングが継続できない方や、様々な世代が歩数表示板や MAP を活用して参加できるイベントを実施することで世代間交流を図った。ウォーキング中にビブスを着用したり、缶バッチ作製体験 PR イベントを行うことで活動の認知度もあがり参加者が増えていった。

坂の多い地域であり高齢者にとっては暮らしにくいまちというイメージになりがちであったが、地域の特色である坂のまちを利用し、地域住民の健康増進と地域の活性化を目指したいと考えている。

14

平渕　南天会

高齢者と子供たちの繋がり

地域内では、町内会の他にも老人クラブ（南天会）、小学校の父親で組織されたおやじ会、子供会などそれぞれが独自に活動している。

敬老祝賀会において地域の子ども達から高齢者に作文を読んでもらうことになっており、子供会やおやじ会と話しをする中で、世代間交流を進めるために餅つき大会も新たに開催することとなった。

9月に実施した敬老会においては、地域の小学生が参加し、参加した高齢者に日頃の見守りの感謝を伝える機会となった。2 月に開催した餅つき会も 80 名が参加し、高齢者と子どもだけではなく、地域住民同士が交流する機会となった。

15

松陵・永和台地区
社会福祉協議会

松陵・永和台地区社協地域交流会
みんなで一緒に楽しみましょう！

各町内会（社協部会）で活動を実施してきたが、町内会単独で活動を実施することが人員的にも困難である一方で、コロナ禍により地域住民のつながりは希薄になり、交流の場が求められていた。

町内会の垣根を越えて住民同士が交流できる機会として、地域の子どもから高齢者を対象にイベントを開催。ボッチャやダーツの体験コーナー、楽器の演奏や踊りと太鼓のステージ発表、地域包括支援センターによる福祉の相談コーナーや、握力や体重の測定コーナー等を設けて、参加した住民が、会場や広いロビーで交流を図れるようにした。各町内会での行事が、様々な事情で実施できなくなっている中で、住民間の新たな関係性を生むきっかけとなった。

16 金剛沢体育振興会

第24回ふれあいスポーツ村

-歴史に触れる健康ウォーキングとUDスポーツ「モルック」の体験-

子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる場を設け、顔の見える関係づくりを促し、地域内での自然な気にかけ合いができるきっかけになればとの思いから開催。地域内で歴史のある場所を巡るウォーキングと UD スポーツ「モルック」の体験を行った。

※ UD(ユニバーサルデザイン)スポーツ…子どももお年寄りも、男性も女性も、障害のあるひともないひとも、みんなが楽しめるスポーツ。

また、作成したパンフレットには金剛沢の歴史やウォーキング、モルックに関す内容に加え、地域福祉に関する内容(主に見守りの重要性など)を掲載し、参加者に配布した。今後は散歩や通勤、通学の際の「ながら見守り活動」に取り組みたいと考えている。

17 作並地区社会福祉協議会

和紙のランプシェードで新たな参加者を巻き込もう！

地区社協がどんな団体か地域住民に知ってもらい、若い世代にも地区社協活動に参加してもらうきっかけづくりとして、ランプシェードづくりを行った。ランプシェード作りの冒頭では、地区社協の活動や現状を説明し、参加者に向けて周知を行った。

作成したランプシェードは、毎年 1～2 月に開催しているほっこりさくなみ(雪まつり)で展示した。ランプシェードには地区社協の名前入りシールを貼り、お祭りの来場者への PR を図った。また、担い手の確保へ向けて地域住民に呼び込みを行い、担い手の確保を目指した。

18 ふれあい学びネットい・ず・み 推進委員会

あそびの天国　ミッション「全ブースクリアせよ」

七北田中学校区にある3つの小学校(七北田小、野村小、市名坂小)の児童を対象に泉区中央市民センターで交流イベントを開催。センター全体を会場として、ふれあい学びネットいずみの構成団体やその他地域の諸団体、企業、ジュニアリーダー、高校生・大学生がそれぞれの提案やアイディアでブースを設置し、参加した児童との交流を図った。参加した児童の中には特別支援学級の児童の姿もあり、同級生や中高生のボランティアと関わることで、学校や学年、障害の有無などの垣根を超えたインクルーシブなつながりが育まれた。地域のつながりが強固になり、地域全体での「子どもを育てる意識」が醸成された。

19

AsoVi-Va みやぎ

屋内施設に関する視察とシンポジウム開催

宮城県（仙台市）では屋内で無料の子どもの遊び場が不足していることを課題と感じ、県外の屋内施設の視察やシンポジウムを実施。シンポジウムでは、「みんなが家族のように繋がる未来を実現する～仙台市の屋内遊び場について考えよう～」をテーマに、団体の活動や県内外の施設や施策を視察して学んだことの発表、子どもの遊び場の在り方や効果・必要な支援について話題提供を行った。その後、「子どもたちがのびのびと学び育つ地域づくり」についてディスカッションし、現状や課題を改めて認識することができた。

今後も子育て世代のリアルな声を聞きながら、多世代を繋げられる仕組みつくりや誰もが安心して子育てできる地域社会の実現に貢献していきたいと考えている。